

プレスリリース

認知症ケアと看民工連携への期待

～第 3 回 iCONM 市民公開講座のお知らせ～

- 3/6(日)14:00 より、第 3 回 iCONM 市民公開講座「認知症ケアと看民工連携への期待」を開催。
- 2025 年には、高齢者（65 歳以上）の 2 割が罹患するとされる認知症についての情報を提供。
- 認知症治療の現状と今後の展望。
- 認知症になっても暮らしやすい街づくりとは？
- 自分や家族が認知症になったら？

報道関係者 各位

平素は大変お世話になりましてありがとうございます。

公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター（センター長：片岡一則、所在地：川崎市川崎区殿町、略称：iCONM）は、後述の実施要領にて第 3 回 iCONM 市民公開講座「認知症ケアと看民工連携への期待」を 3/6（日曜）に開催致します。

世界保健機構(WHO)憲章では、「病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが 満たされた状態」と健康を定義しています。認知症は本人だけでなく、家族や社会にも影響し、この憲章で示す健康を大きく損なう代表例ともいえます。2025 年には、65 歳以上の 2 割が認知症を罹患するとされ（内閣府・平成 28 年版高齢社会白書）、また、現状のままであれば、高齢化率の更なる増大に伴い、今後、罹患者数が増加の一途を辿ることが予想されます。令和元年 6 月に厚生労働省は「認知症施策推進大綱」を発表し、「認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる＜共生＞を目指し、認知症バリアフリーの取組を進めていくとともに、＜共生＞の基盤の下、通いの場の拡大など＜予防＞の取組を政府一丸となって進めていきます」と記しています。進行は抑えられても、有効な治療薬が無い現在において、認知症になっても暮らしやすい社会の構築は大変重要であり、自分や家族が認知症となった時にどうすれば良いかを、専門家の皆さまとともにディスカッションできればと思います。

本シンポジウムにおいては、ナノ医療イノベーションセンターの中核研究となる「ナノ DDS」技術を駆使し、脳内への薬剤の取り込み率をあげることで認知症治療に取り組むブレイゾン・セラピ

ユーティクス社の戸須眞理子会長からのご講演に続き、認知症を看護の立場から研究し、誰もが社会的に受け入れられるオールインクルーシブな社会を実現しようとしている大阪大学大学院医学系研究科老年看護学教室・准教授の山川みやえ先生から「認知症になっても暮らしやすい街づくり」についてご講演頂きます。

パネルディスカッションでは、昨年8月に川崎市立川崎病院に設立された認知症疾患医療センターから北菌久雄センター長、今年4月に開学する川崎市立看護大学から地域看護がご専門の荒木田美香子先生（副学長予定者）、認知症ケアのための図書館利用について精通する川崎市立宮前図書館の舟田 彰様にご講演者2名が加わり、認知症に優しい社会とは？そこにはどんなニーズが？工学的な解決策は？という観点でお話を伺いたいと思います。

一般の方々を主に対象とした企画です。是非、本シンポジウムにご出席頂ければ幸甚に存じ上げます。

記

日時： 2022年3月6日 14時～16時

場所： Zoom によるオンライン（13時45分に開場します）

参加費： 無料

事前登録： オンラインミーティングの性格上、3月3日までに以下のサイトからご登録をお願いします。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/form/iconmlecture3/>

プログラム（お名前の敬称は省略させていただきます）：

- 挨拶
片岡一則（川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター センター長）
- 講演
 - 脳に薬を届ける技術が起こす脳疾患治療の新しい夜明け
戸須 眞理子（株式会社ブレイゾン・セラピューティクス 取締役会長）
 - 健康問題を抱えても暮らしやすいまちづくりとは？例えば認知症になったら
山川 みやえ（大阪大学大学院医学系研究科老年看護学研究室 准教授）
- パネルディスカッション「認知症に優しい社会と看民工連携への期待」
荒木田 美香子 川崎市立看護短期大学 教授
北菌 久雄 川崎市立川崎病院認知症疾患医療センター センター長
戸須 眞理子 株式会社ブレイゾン・セラピューティクス 取締役会長
舟田 彰 川崎市立宮前図書館 課長補佐
山川 みやえ 大阪大学大学院医学系研究科老年看護学研究室 准教授
モデレーター：島崎 眞（iCONM/COINS コミュニケーションオフィサー）
- 質疑応答

主催： 川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター

後援： 川崎市

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の100%出捐により昭和63年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次を実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

2022 年 2 月 14 日